

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°59 ノー・コントロール

生産地方：オーヴェルニュ

新着ワイン3種類♪

シードル・ヘルサイダー 2018 (辛口泡)

2017年に初リリースし、今回2回目のリリースとなるヘルサイダー！前はガス圧が高すぎて開けるたびに噴いてしまう問題があったため、その反省を踏まえて今回は1.6気圧とガス圧を控えめに抑えている。ヴァンサンはノルマンディー出身で、リングはノルマンディーの知人の果樹園から買っているが、2018年は前年のように収穫を1回で終わらせず、1ヶ月の間週末だけノルマンディーに出かけ計4回に分けて収穫している。また、今回は早期に収穫したリングはその都度ドメーヌで陰干しを行ない、リングの糖度を高めてから仕込んでいる。加えて2018年は太陽に恵まれた当たり年だったこともあり、出来上がったシードルはボリューム豊かで、アルコール度数も8%と前年よりも2%高い！

VdF ロカイユ・ビリー2018 (赤)

2018年はかつてないほど大豊作に恵まれた当たり年。ただ、醸造は、日照りの影響により窒素が不足していたことから、発酵が思うように進まなかった。発酵を促すためにマセラシオン期間中は毎日2回のルモンタージュと1回のピジャージュを敢行。半年かけてやっと発酵を終わらせることができた。出来上がったワインはいつもよりも重厚でボリューム感があるが、適度に高いボラティルがむしろ程よいアクセントとなり絶妙な味わいのバランスを生みだしている！

VdF フュージョン 2018 (赤)

2018年は一部ミルデューの被害に遭ったが、それでも40hL/haと例年並みの収量が取れている。今回のフュージョンは2016年と同様ガメイ・ド・オーヴェルニュ40%にガメイ・ド・ボジョレー60%がアッサンブラージュされている。ヴァンサン曰く、ロカイユ・ビリーとフュージョンの違いは、テロワールと仕込み方法とのこと。ロカイユ・ビリーは、花崗岩の力強く品種の特徴が味わいにダイレクトに反映されるのに対し、フュージョンは、泥土状の火山灰が堆積した水はけのよい土壌で、テロワールに反映されたエレガントでフィネスあるワインが特徴とのこと。醸造も、ロカイユ・ビリーの力強い味わいには、抽出を意識したスミマセラシオン、そして、フュージョンは抽出の柔らかさとフィネスを意識しマセラシオンカルボニックと仕込みを分けている。

ミレジム情報 当主「ヴァンサン・マリー」のコメント

2018年は、収量的にはかつてないほど豊作に恵まれた当たり年！だが、ブドウに窒素が不足していたため発酵がなかなか進まず醸造に苦労した…。冬のスタートは寒く、ブドウ樹の休息に十分なくらい気温が低かった。春は温暖で雨も適度に降る理想の天候が続いた。4月の中旬に寒波が降りたが、幸い畑は風通しが良かったため霜の被害はほとんどなかった。5月は雨の多い不安定な天候が続いた。この雨の影響で、フュージョンの畑が一部ミルデューの猛威に遭ったが、それ以外の畑は、ボルドー液の散布が功を奏し、どうにか被害を免れることができた。6月に入ると天気は一転、雨のほとんど降らない乾燥した天候が収穫の終わりまで続いた。開花も順調。どの畑もブドウの房が多く豊作が期待された。7月8月は猛暑で、時折大規模な雹が畑の近くをかすめたが、幸い雹に当たることはなかった。最終的に、夏の間は日照量に恵まれ、無事収量を保ったまま収穫にたどり着くことができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

フランスではコロナの影響により3月17日から1ヶ月以上ロックダウンが続いている。外出は基本的にテレワークができない仕事、食料品の買い物、離れて暮らす子供や病床に就く家族との面会、個人で行う1時間程度の軽い運動に限られ、それらの理由なく外出した場合は135€の罰金を科せられる。この状況は5月11日で一度解除

され、100km 圏内の外出は許可されることになったが、今後の状況次第では緊急事態宣言が再度発令される可能性もある。このように生活行動が大幅に制限される状況下の中、気になるのはヴィニョロンの作業状況。一体どのように毎日を過ごしているのか？普段は私がヴィニョロンを訪問し、その取材情報をお伝えするのだが、訪問を再開できるまでは、ヴィニョロンから送られた、彼らが一番伝えたい情報を基に最新の情報をお届けしたいと思う。



写真① 勢いよく伸びているレ・クロスのシャルドネ

まずヴァンサンから送られてきたのは、レ・クロスのシャルドネの畑の写真だ。(写真①) 現在、彼は芽かきの作業を急ピッチで行っている。今年は暖冬かつ春の寒波もなかったため、ブドウの成長スピードが3週間ほど早く、写真ですすでに30cm近く伸びている新梢も見受けられる。ヴァンサン曰く、近年は霜対策のため剪定する枝を長めに残しているが、今年は霜がなかったため全ての芽が写真のように伸び、かえって芽かき作業が増えてしまったとのこと。加えて、現在は外出禁止令が出ているため、新たに季節労働者を見つけるのが難しく、写真を見ても、確かにブドウの樹のまわりは雑草が生え放題で、作業が追い付いていない様子が良く分かる。

そんな中やはり頼りになるのはヴァンサンの家族。現在、奥さん、子供達、奥さんのご両親がほぼ毎日総出で芽かきを手伝っている。これはヴァンサンの娘ゼリと息子ザガリの写真。(写真②) 二人とも美男美女で超かわいい〜♪彼らも現在小学校が閉鎖中なので、お母さんにくっついて芽かき作業を手伝っているようだ。都市では警察が常に巡回していて、家族で外出することなど不可能。さらにアパート暮らしで、庭がない世帯も多く、外出禁止からのストレスも計り知れないが、ヴァンサン家はそのようなストレスとは全く無縁の世界にいるかのように感じた。



写真② 愛娘と愛息が畑をお手伝い♪



写真③ 手伝いに訪れた地元のレストランメンバー達

今回は、家族以外にたまたまヴァンサンと取引のある地元のレストランのメンバー達が手伝いに来てくれて、芽かき作業も一気に進んだと彼は満足そうだった。(写真③) ちなみに、手伝いに来たレストランのメンバー達も政府の外出制限により7月中旬まで店を開けることができない。彼らは現在国からの休業補償を受けているが、実際それだけでは生活を維持することは大変だそうで、このように取引のある地元のヴィニョロンや農家を回りながら生活費を稼いでいるようだ。

電話の最後にヴァンサンに「外出禁止令が出て以降、将来的な漠然とした不安はないか？」と聞いてみた。「今は畑の作業が忙しすぎてそんなことを考えている暇がない。今のところフランス国内のカーヴィストからのオーダーもあるし、輸出はヨーロッパのオーダーが保留の状態にあるが、アジアからのオーダーはある。まずは6月終わりまでは畑作業に集中して、それから考えたい」と答えてくれた。買い物以外は1ヶ月以上外出していない今の私にとって、日々畑で汗を流しているヴィニョロンの生活は別次元にいるような感覚を覚えるのだが、とにかくこの色々と大変な状況下でヴァンサンも元気そうで何よりだ！(2020.4.20.メール&4.24.ドメーヌ突撃訪問生電話より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ